

**新型コロナウイルス感染症に対応した
音楽系の部活動(合唱部、吹奏楽部、太鼓部、リコーダー部等)における配慮事項**

令和2年6月8日 札幌市中学校音楽連絡協議会「Tutti」

学校が再開し、部活動も6月15日より活動が始まることとなりました。そこで、部活動を行う上で、新型コロナウイルス感染症に対応した配慮事項を検討してみました。この内容は、札幌市教育委員会とも相談させていただいておりますので、各学校でご参考になさっていただければと思います。

1 基本的な考え方

音楽科の授業とは違い、部活動としての活動を行う中で、札幌市教育委員会から出されている「札幌市における教育活動のガイドライン(5月26日改訂)」の「4 部活動に関すること」の内容に沿って活動を行うことが大切である。そのガイドライン内では、文部科学省が定めた行動基準において、札幌市は「レベル2」とであると判断されており、教科として音楽科では合唱などの歌唱や、リコーダー等の器楽は当分の間控えることが求められるが、部活動としては「音を出してはいけない」ということではないと考える。**①換気の悪い密閉空間 ②多くの人が密集している ③近距離での会話や発声が行われる** といった状況を避け、下記の内容を参考に、子どもたちの健康と意欲を大切にしながら、活動の方法を工夫し、部活動を段階的に再開していくことが大切である。ただし、このような状況の中、活動の中での感染への恐れを感じる生徒や保護者がいる可能性も考え、無理して活動させない、活動の方法等について、保護者にわかりやすく説明するなど、十分な配慮が必要である。

今後、感染状況を見ながら札幌市がガイドラインを更新する中で、活動の範囲が広がっていくと思われるので、その状況まで、各学校の実情に応じて方法を工夫して活動を行う。

2 具体的な対応

- (1) 教師や部活動指導員が部活動の実施状況を把握すること。
- (2) 活動前後の手洗いを徹底するとともに、練習場所については、こまめな換気や消毒液の使用を徹底すること。また、長時間の使用を避け、十分な距離を確保できる少人数での利用とすること。
- (3) 生徒が密集する全体での合唱や合奏、向かい合って発声したりするパート練習などの活動については、レベル1後に行い、その際も感染症対策を行ったうえで実施可能。
- (4) 当面の間は自校での活動とし、合同練習や自校・地域での発表等は避ける。
- (5) 合唱については、当面、対面して発声する活動を控える
- (6) あいさつや返事等についても、飛沫が最小限となるよう配慮する
- (7) 吹奏楽部等、楽器や用具(マウスピースやスティック・マレット、ばち等)の貸し借りはせず、練習の前後は、口に付けたものはしっかりと洗浄し、マレット等は消毒する。
- (8) 唾液の飛沫や接触を避けるため、自分専用の雑巾や、唾液が付着する可能性のあるメンテナンス用品などは、ビニール袋に入れて持ち帰るなど、唾の処理等に十分配慮する。
- (9) 活動時間等については、「札幌市立学校に係る部活動の方針」に則ることとし、休養日を確実に設定し、休養の確保を徹底する。また、感染の拡大防止の観点からも、より短時間で効果的な活動の実現に積極的に取り組むこと。
- (10) 活動後は、使用した教室等を教師や部活動指導員らで消毒する。(生徒にやらせない。)